

# 特殊幼児の保育

都 築 裕 治

## ★ 一つの疑問

特殊幼児の保育ということで文章を書くことになってしまった。そこでまず、陳腐であるかもしれないが、一つの疑問にぶつかった。特殊幼児というものが存在するのだろうか。特殊“というからには特殊ではない、いわゆる“普通”というコトバが想起される。この特殊と普通との境界の設定はいかにしてなされるのであろうか。知恵遅れの場合などは、“文部省の定義によれば……”とか、“〇〇の基準によれば……”といったものがいろいろある。境めの引きようで、特殊というコトバがついたりつかなくなったりするのは奇妙なことに感じないだろうか。

今ここにAちゃんという子がいて、そのAちゃんは目が見えないとか、知恵が遅れているとか、情緒が他の子よりも著しく不安定などといったことはあるだろう。それは事実である。しかし、“特殊幼児”というものがあって、その中の一人にAち

ゃんがいる、というのはおかしい話だ。盲人とか精神薄弱児とかといった、いわゆる正常者とは別の人種(?)がいて、それに幼児期とか児童期とかを迎えて行くというのではなく、まず人間というものがあり、その中には、ある部分の機能に障害という状態をもった人たちもいるというようにとらえたい。Aちゃん、Bちゃん、Cちゃん……を見つめ、その子らの状態にあったふれあいを考えるという目をもちたいものだ。そうしたとき、どんな状態の子どもも、同じ土俵の中で、分け隔てなく伸ばしてやりたい、伸びて行ってほしいという気持ちが出てくる。

特殊幼児というものがあから、その特殊な幼児のみを集めて、特殊幼児の保育を考えるというのではなく、目の前にいるAちゃんを見ていたら、他の子どもとはちょっと違った配慮も必要であった、というようになってほしい。ところが現状では、そうした特別な配慮をしてくれる幼稚園とか保育所はまだまだ少ないようである。そうした配慮をしないということは、

障害をもった子どもは、そこには存在できないということである。

そして、障害をもった子どもはそれぞれの障害別に集められることになる。物理学で素粒子のことを考える場合、素粒子のひとつについて記述することはできないので、ある条件を与えて、これこれのときにはこうであると、ひとまとめにして記述するということがあるらしい。ひとつについてはわかっているけれども、全体については何となくわかってくる。Xさん、Yさん、Zさんは決して同じではないが、「日本人の性格は……」などというとき、XさんもYさんもZさんの中にひっくるめて語り得てしまうように、Aちゃん、Bちゃん、Cちゃんを語り得なくても、「盲幼児の指導は」とか「精薄幼児の指導は」などというといろんなことが語られてしまう。

そんな訳で、障害別の教育の場というものは、訓練とか治療教育とかといった観点に対しての実際的なアプローチは、指導する側としてはやりやすい。しかしそのような形での教育は、特別な配慮のみが先に立ってしまい、有効な反面、失っているものがある。

それは、いろいろな状態の子どもがいろいろなかわりあいをして遊ぶということである。遊びの場までが分断されてしまっている。これはいわゆる普通児にとっても同じである。自分

のまわりに目が見えなかったり、歩けなかったりする友だちがいらないのだから。入園時の基準のワクを通ってきたある幅の中の友だちしかいないのだから。

### ★ “子ども”として考える

“子ども”というコトバは障害の有無を超越している。“子ども”のことを考えればいいのだ。特殊幼児のことを考えるといわゆる普通児のことが視野から抜けてしまう、普通児のことを考えると特殊幼児のことが視野から抜けてしまうというようにはなりたくない。障害をもった子どもは社会から差別されていると言われることがよくあるが、そのことを強調し、それらの子を何とかしなければとっているうちに、それらの子のみしか目がいかないようになってしまうことはないだろうか。それは、いうならば逆差別ではないだろうか。

幼児期からいろいろな状態の子どもたちと接するということは、障害の有無があっても、同じ友だちなのだという意識を自然な形で芽生えさせることになり、「○○ちゃんネ、ウーン、こうなってるでしょ。ぼくと、エートサ、ちがうの」というようには思っても、それは事実そのままの認識であり、障害児に対する偏見といったものにはならないのではないだろうか。ただし、そこで教師が子どもたちを分け隔てて見るような言動を

した場合には、結果が全く違って来てしまうおそれがある。幼稚園や保育所に、障害をもった子どももどんどん入って行き、その中で、子どもによっては特別な配慮をしてやる場も開かれているという形が自然なのではないだろうか。

### ★ “施設” の中で

ところで私は、精神薄弱児通園施設という所で、知恵遅れといわれている幼児の教育をしている。Aちゃん、Bちゃん、Cちゃんが集まってきて、その子どもたちがたまたま知恵遅れだったというのではない。知恵遅れというカテゴリーがあり、そのうちの幼児期の子どもたちが来る所である。だから、当園に来る子どもはすべて異常な所があるんだという職員の目が、あらかじめできてしまっている。どこかに異常な点があるというところあるだろうからと、入って来た子どもの欠陥を探し出すことに勢力を注いでしまいがちである。職員同士の話合いの中で「Aちゃんはこんなふうなことをしていたが、自閉的な傾向はどうだろうか」とか、「Bちゃんは三輪車をうまくこげないが、マヒがあるのではないだろうか」といったことが出て来る。

子どもの個々の状態を見きわめて、それぞれにあった指導をするという意味では、これはこれでいいと思う。耳が遠いようだとか、手や足にちよっとしたマヒがあるようだということが

新たにわかれば、それに対する配慮を考えてやることができる。それは、このような過程をへて、子どもたちを見て行くわれわれの目が異常になって行ってしまうのではないかと、おそれである。「この子には異常行動がある」ということは、まわりと比べて異なっている点があるということであり、異なっていない点があるのかもしれない。異常性ばかりを、うの目の目の目ではじくり出す目ばかりがわれわれの側に育ってしまいい、「○○ちゃんと友だちになろう」という目がどこかへ行ってしまうような気がする。

特殊性に対する眼点ばかりで、非特殊性（一般性）に対する配慮が欠けてしまいがちである。そういう扱われ方は、子どもたちが一般の幼稚園や保育所には入れなかったということからある程度方向づけられてしまっている。毎日子どもたちと接していると、どうしてうちの園に来なければいけないのだろうかと思う。幼稚園などで遊んでいる子どもとどこが違うように感ずるところもあるが、同じところもずいぶんある。いわゆる欠陥部分のみが前面に出て、幼稚園などから入園を断わられてしまっているのではないだろうか。

### ★ 教師の立場

知恵遅れの子どもは、特殊なおかしな子だという評価でおおいかぶさされているから、その子どもたちの教育にあたる者は、少しも悪者にならない。普通であれば、子どもに見向きもされない教師というものは、あまりこういうことに向いていないのではないかと思われる。子どもを引きつけるだけの魅力とか、それに伴う技術とかを持っていないと有能とは思われない。ところが、こういう子どもたちを集めた場所ではちよつとようすが違う。違うというよりも、違っても通ってしまうのである。子どもが教師を見向きもしないのは、「対人接触の余りできない子」と評価すればことは終わってしまう。またそういうように、評価をズバツと出せるということが、教師のいわゆる資質とも考えられる。これこれのことをやろうと、こちらで用意した活動に子どもたちがついて来ないということはよくある。そういうとき、普通なら「私のやり方がまずかったのだろうか」ということになるのだが、往々にして「〇〇ちゃんは発達の程度が低いから……」とか、もっと単純に「〇〇ちゃんはダメだ」といった評価がなされて行く。これは問題をすべて子どもに返してしまっている。

あるクラスでうまく行ったことが、あるクラスではうまく行かないと、「子どもの質が違う」と結論してしまう。そこには教師の責任はみじんもない。違っているのは、実はその場にい

た大人の方の質であったということはないだろうか。ある人のやっていることを、これはいいと形だけ真似しても、全然子どもたちがついて来ないということが私などにはよくある。レポートがつくまでは何をやってもダメだといったようなことも思うが、人によっては、初対面の子どもたちとその場で心をかかわしてしまい、子どもたちが生き生きとその人を含めて動き始める。そういうのを見ると、マンホールのフタの開いているのを知らずに上を向いて道を歩いていて、突然自分の身体が地面の下にあったといった気がする。ダメなのは子どもではない。ダメだと思いついでしまう自分なのではないかと。子どもが往々にして悪くなってしまうところに、特殊教育の場の、教師に對する特殊性がある。

このごろフクシ、フクシと言われるが、このコトバがまたよくわからない。当園は福祉行政の中に組み込まれている。われわれの毎日の活動は、個々の子どもたちをそれぞれに伸ばしてやりたいということで、そのかわりあいというものには教育にほかならないと思うのであるが、障害児の教育をすることで福祉になってしまおうのであろうか。福祉というコトバはもつと別のニュアンスをもっているのかもしれない。上部からのわれわれに對する評価というものは、子どもとどう接するかということあまり問題にしないようである。してみると、福祉は

教育をすることではなく、分類して、集める、ことなのかと、へソ曲りな見方もしてみたくなる。

### ★ 現場から

こんな具合で、いろいろとわずらわしいことはあるが、子どもにとって魅力のあるおにいちちゃんであり、おじちゃんであり、おじいちゃんでありたいと思う。トンチンカンなことばかり起こることの責任を、子どもが悪いと決めつけることをやめると、ここの子どもたちはわれわれにとって有益なことを提供してくれる。こんなことがあった。当園では母子通園であるために、家庭の都合によっては兄弟も一緒に来るケースがある（同伴児と呼んでいる）。その子たちも他の園児と共に活動していたのであるが、あるときリズム合奏（楽器鳴らし）をしようと、タンバリン、カスタネットといった楽器類を持って来たところ、「わたし、これだいきき」と同伴児。そこで「アッ」と思った。当園のプログラムは子どもを見ている中から、子どもの発達段階に合ったことを、子どもの興味を引く形で、緊張持続時間等も考慮して無理のないようにやろうということで進んで来た。しかしこれは、知恵遅れと言われている子どもの方に焦点を合せたものであって、同伴児にはピントはずれなことがあったかもしれないのである。「これだいきき」の裏に、いやいややっ

ていたものもあるのではないかと考えさせられたのである。そうだとすると、いやなことでもやってしまうのである。多少やることもおもしろくなくても、おつきあいをしてくれているのである。

ところが知恵遅れの子どもの方というところ、こちらへのおつきあいななどということはほとんどない。義理人情などにはまったく縛られないから、私がいくら頑張つてハッスルしてみたところで、やっていることややり方がおもしろくなければ、外へ出て行ってしまっただけである。こうなると、どうしてもやってほしい要素をもった活動の場合には、その子のレベルになつて考えることを要求される。話が横へとぶが、よく〇〇あそびを通して××を育てる”というふうにいわれる。〇〇あそび”というコトバを使うと、いかにも子どもが生き生きと動き出しそうな感じがするが、実際には〇〇あそびと命名された教育活動に、子どもがおつきあいをしてくれたりというにすぎないことはないだろうか。

子どもが自分の動きによってわれわれを「そうそう、その調子、今度もやってみたら」とか、「そんなやり方されてもちつともわからないよ。おもしろくないから外へ行くよ」などとダイレクトに評価してくれる。これは、本当は知恵遅れだからというのではないと思うのだが。

最後に、子どもたちの帰った後で書き綴った日記から抜き書きして、この拙文を閉じたい。

×月×日 どんぐりひろいで裏山へ行ったのはよかった。自己満足かもしれないが、① 自然に触れさせる ② 子ども自身の遊びの中から出たものを指導の中枢として行くということができたような気がする。……ベンチの上にながってとびおるとAちゃんとSちゃんがその真似を始めた。ただし二人とも、とびおるとき介添が必要であった。驚いたのはAちゃんのことである。ベンチに上がろうとして上がれず、多少の介添をして上にながらせたが、二回目にはもう自分ではい上がっているのである。つな引きをお母さんたちが始めると、子どもたちもよって来てつな引きが始まった。……無理にやらせなくてもこちらで示せば、興味があればついて来る。これらの活動で子どもがついて来たのは、そこにいた大人が、自分自身も楽しんで動いていたということであろう。

×月×日 二十分刻みはちょっとまだ無理なようである。ただし、ものによっては二十分以上もつものもあるので、一率に時間ワクを決めるのではなく、だし物によって長短を考えてもいいだろう。紙吹きは、昨日と違い、色紙を大きいまま与え、

吹けないようすを見て、次々に半分の大きさのものに取り替えて行った。昨日は細かい紙が机の上でヒラヒラと舞い、また息を吹きかければ確実に紙片が飛ぶので興に乗っていたようであるが、今日はいまよく飛ばないので、あまり乗らなかった。まず確実に成功体験を与え、十分にそれでもって遊ばせるようになければならないであろう。

×月×日 何となく活気のない感じであった。これは、こちらが乗らなかったのであろう。子どもたちはキャアキャアする場面もあった。新聞紙で紙ちぎりをした。ちぎることよりも、細くなったものをかきまわすことの方に興味がいつてしまったようである。はじめは机の上でやっていたが、カーペットの上に移した。紙を細長くし、ひっぱりっこにもっていくとひっぱりっこを始めては、はじめにビリビリとちぎってみせたのであるが、ひっぱりっこをまずやれば、やぶることに興味がいったかもしれない。……

×月×日……楽器を前にしても、ぼうぜんとしてやらない子がいる。その子らの前に行ってしゃがみ、目の位置を同じにして楽器をたたいて見せたところ、それだけでたたき始めた。……

(東京都府中児童学園)